

# 平成30年度 流山市の長期欠席児童生徒について 資料

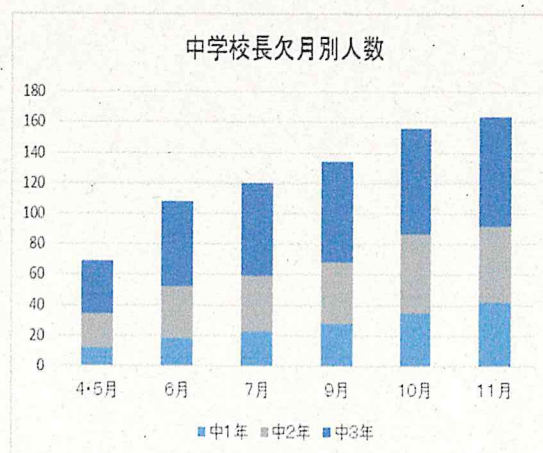
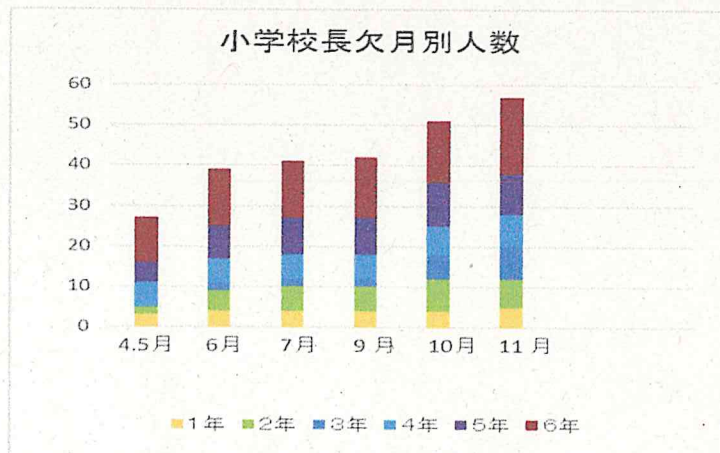
流山市教育委員会

## 1 長期欠席児童生徒の現状

### ① 過去3年間の推移（平成30年度は11月末現在）

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
小学校	児童数	9,898人	10,633人	10,892人	
	長欠児童数	90人	94人	57人	
	流山市長欠率	0.91%	0.88%	0.52%	
	不登校率	不登校児童数	14人	23人	22人
		流山市	0.14%	0.22%	0.20%
		千葉県	0.46%	0.51%	
		全国	0.40%	0.54%	
中学校	生徒数	4,150人	4,260人	4,351人	
	長欠生徒数	191人	195人	164人	
	流山市長欠率	4.60%	4.58%	3.76%	
	不登校率	不登校生徒数	77人	77人	73人
		流山市	1.86%	1.81%	1.67%
		千葉県	2.73%	3.06%	
		全国	2.80%	3.25%	

### ② 今年度の小学校・中学校の長期欠席児童生徒数（11月末現在）



- 注) ・「長欠（長期欠席）児童生徒数」には、様々な理由で30日以上欠席した人数が全て入る。
- ・「不登校児童生徒数」は、「長期欠席児童生徒数」のうち、病気による欠席やフリースクール、インターナショナルスクールの通学者を除いたものである（学校を30日以上欠席した流山市教育支援センター利用者も含む）。

### 【今年度の長欠児童生徒数の推移グラフから】

- ・小学校では、心身の成長と共に人間関係でトラブルが増えてくることに起因して、高学年になると長欠が増加する傾向がある。
- ・中学校では3年生に前年度からの継続ケースが多く見られる。
- ・11月現在の小学校の長期欠席児童は57名のうち全欠児童11名
- ・中学校の長期欠席生徒は164名のうち全欠生徒23名



・全欠（出席0日）の内訳

（小学校11名）市の教育相談利用3、インターナショナルスクール3、フリースクール2、体調不良1、ホームスクール1、家庭の方針1

（中学校23名）病気4、インターナショナルスクール4、ホームスクール3、家の方針3、管理職・SC対応3、県の訪問相談員利用2、地域生活支援センター1、医療機関利用1、フリースクール1、タイ現地校1

## 2 流山市の取組及び成果と課題

### (1) 不登校に対する取組

#### 【実態把握】

長欠状況報告書作成を毎月学校に依頼し、欠席人数や理由、校内支援体制等を把握する。

#### 【教育相談】

臨床心理士をはじめ、専門の相談員が保護者や児童生徒・教職員を対象に実施している。

#### 【親の会】

臨床心理士（大学教授）を講師に招聘し、不登校の保護者同士の交流の場としている。

（年6回：5月、6月、9月、10月、1月、2月）

#### 【教育コンサルテーション】

精神科医が保護者や教職員の相談に対応する。

（年8回：6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月）

#### 【不登校対応研究会】

各学校の長欠担当が事例検討等の研修に参加し、校内支援体制に生かせるよう専門の講師を依頼している。（年3回：5月、7月、2月）

#### 【教育支援センター（フレンドステーション）】

不登校になっている児童生徒を対象として、集団生活への適応指導、学習指導、体験活動等により学校・家庭と連携して児童生徒の自己実現・学校生活への復帰を支援する。

\*体制については【資料】参照

### (2) 成果

- 市スクールカウンセラーや教育支援センター担当職員、学校、保護者、各相談機関と連携を図る中で、生徒の学校復帰や進路決定につなげることができた。
- 「親の会」は、参加した保護者が様々な悩みを打ち明けられる場となっている。大学教授である臨床心理士の助言や、同じような立場の保護者と情報共有をすることによって、心に余裕が生まれている。相談員も参加し、保護者の気持ちを聞くことができる。
- 「不登校対応研究会」で、さまざまな悩みを抱える学校が専門の講師から具体的な助言を受けることで、対応の方向性を見出せている。
- 「教育コンサルテーション」を受けることで、医療との連携が必要な児童生徒・保護者が適切に医療につながり、状況の改善に結びつけることができた。

### (3) 課題

- 長欠率は若干低下しているが、保護者からの相談は増加傾向にある。今後も未然防止、早期発見・早期対応、学校と相談機関の連携を深めていく必要がある。
- 引きこもりがちな児童生徒への支援については、学校と相談しながら県の訪問相談担当教員を活用していく。
- 家庭環境（保護者の教育力の低下、虐待、無関心等）が原因の不登校への対応について今後も各関係機関と連携をしていく。
- 教育支援センターでは、学力不振に悩んでいる子どもたちの学習意欲を高め、学力を向上させ、自信を回復する場として、環境整備を含め、いっそうの研究を進めていく。



# 流山市の就学前後の子ども支援

